

馬場章夫のチンチン電車で行こう！

～阪堺電車・上町線編～

全ルート

ルートA

(約 3.0 km)

ルートB

(約 3.2 km)

ルートC

(約 0.8 km)

ルートD

上町線・住吉公園駅
～天王寺駅前駅まで
乗車するルートです。
見どころガイド④で
ご紹介します。



馬場章夫のチンチン電車で行こう！ ～阪堺電車・上町線編～ 見どころガイド

はんかいでんしゃうえまちせん おおさかばしやてつどう

●阪堺電車上町線と大阪馬車鉄道

現在の阪堺電車上町線は、馬が客車を引いて線路を走る「大阪馬車鉄道」から始まりました。

この馬車鉄道は、明治33年(1900)に天王寺西門前から東天下茶屋の間で開通しましたが、その10年後には電車に移行。そして大正10年(1921)からは、天王寺西門前～天王寺駅前の間が、大阪市の市電として運行されるようになりました。現在その市電はなくなり、天王寺駅前駅～住吉公園駅までの4.6kmを11停留場(駅)で結ぶ、チンチン電車の俗称で親しまれている阪堺電車が運行されています。

お得なきっぷ情報！全線1日フリー乗車券『てくてくきっぷ』

今回のポッドウォークで大活躍する1日乗車券。上町線・阪堺線を当日限り、乗り降り自由のきっぷです。スクラッチ式のカードになっており、乗車する年・月・日を1カ所ずつ削りましょう。それぞれ2カ所以上削ると無効になるので、ご注意ください!!

販 天王寺駅前・南霞町・我孫子道・浜寺駅前の各乗車券発売所
恵美須町・天王寺駅前・住吉公園の各停留場、電車内 など

料 大人600円・小人300円

問 阪堺電気軌道株式会社 営業課

TEL:06-6671-3080 ※土・日曜・祝日を除く9時～17時50分



くまのかいどう

●熊野街道



平安中期から鎌倉時代にかけて盛んであった熊野詣。
京の都から熊野(現在の和歌山県)までの約300kmの参詣道を熊野街道といいます。王朝貴族から庶民にいたるまで多くの人たちが、熊野を目指して出かけました。その様子をたとえて、「蟻の熊野詣」と呼んだそうです。その街道が上町線沿いにも残っています。
当時は、メインストリートにもなったほどの街道ですが、現在では風情ある和風の家や蔵なども点在しており、道と平行して走る上町線の電車の音がときおり聞こえてきて、どこか懐かしさを感じる風景が楽しめます。また、「熊野かいどう」の説明板や石道標もあるのでたどりながら歩いてみましょう

まつむしづか

①松虫塚



樹齢約800年の大きな榎が目印となる松虫塚。
この塚の由来には、いくつかの伝説があり、その伝説の中には「法然上人を信じ、頼りにした後鳥羽院の女官・松虫が、法然上人が土佐の国へと流された事を悲しみ、この地に庵を結びました(結ぶ=建てて暮らすこと)。>というものや、「この場所を通りかかった旅人が、秋の野に鳴く松虫の声に魅せられて、そこにとどまり、はかなく草の露のように亡くなってしまいました。そこで、その友人が亡くなった彼をその地に埋めて、松虫塚と名付けました。」という世阿弥の謡曲に出てくるものなどがあります。

馬場章夫のチンチン電車で行こう！ ～阪堺電車・上町線編～ 見どころガイド

あべのせいめいじんじゃ ② 安倍晴明神社



▲安倍晴明像



▲清明の“産湯井”

平安時代の陰陽師、安倍晴明の生誕の地と伝えられている場所で、天文学や陰陽の術を学び、占いは神のごとしといわれた人物です。その優れた能力から、母親は信太（現：大阪府和泉市）の葛之葉稲荷の狐だという伝説もあるほどです。境内には、晴明の“産湯井”と伝える井戸もあります。

神社の創建は、晴明の没後2年目の寛弘4年（1007）になります。また、境内には、晴明にちなんで「占い相談事コーナー」もあるので、運勢を占ってみるのもオススメです。

〔時〕〔料〕 境内無料

〔占い相談事コーナー〕

〔料〕 1件 2,000円

〔時〕 13時～17時

〔休〕 無休

あべおうじじんじゃ ③ 阿倍王子神社



仁徳天皇により創建され、平安時代初頭、天長3年（826）に弘法大師が、淳和天皇の直接の命令により、この神社にお参りし、疫難退散の祈祷をして功を成したとされています。

また、熊野街道に沿って四天王寺と住吉大社とのちょうど真ん中にあるため、熊野詣のときには、花山法皇や後鳥羽院、藤原定家なども訪れ、大阪市内で唯一現存する王子社として知られています。

“王子社”とは、熊野の神さまである熊野権現のこどもの神さまを祀った所とされています。

各王子社では、休憩場としての役割もあり、歌会なども催されたそうです。

〔時〕〔料〕 境内無料

〔問〕 阿倍王子神社 TEL:06-6622-2565

きたばたけあきいせんし ぼしよ・ぼしよ ④ 北畠顕家戦死の場所・墓所



武将・北畠顕家は、南北朝時代の南朝側の公家で重臣、北畠親房の息子で、延元3年（1338）、阿倍野の地で足利尊氏側の高師直と戦い戦死します。

実際の戦没地は堺の石原津といわれていますが、北畠の地名があるこの場所で戦死したという説から、享保18年（1733）に京都の儒学者が、「大名塚」と呼ばれていたものを北畠顕家の墓と定めたそうです。

はりまづか こまちづか ⑤ 播磨塚と小町塚



播磨塚は南北朝の頃、住吉の合戦で、南朝方の楠木正行と戦って敗れた播磨の太守、赤松貞範が、戦死した将兵の遺骨を集めて納めた塚で、部下の冥福を祈ったと伝えられています。また小町塚は、小野小町の塚と古書に記されていますが、小野小町がこの地で死んだという記録がないことから、才色兼備な彼女にあやかりたいとの願いから造られた塚だといわれています。

現在、このふたつの塚は一緒にありますが、もともとは別個のものとして、この付近の畑の中にありました。道路整備によりこの場所に移されたとのことです。

馬場章夫のチンチン電車で行こう！

～阪堺電車・上町線編～

見どころガイド

上町線を走るチンチン電車。

車両の種類もたくさんあり、それぞれ番号が記されています。

例えば、モ161形の写真の電車には、『162』と記されています。これは、モ161形の2号車という意味になります。

車両のペインティングもバラエティに富んでおり、同じ形の車両でも深緑に彩られた趣のある色からカラフルな色まで様々で、楽しく見る事が出来ます。

ちなみに写真で紹介しているのは、この沿線でよく見かける電車です。走る電車を見るのも楽しいですよ！



▲モ161形



▲モ161形



▲モ161形とモ121形



▲モ501形



▲モ351形



▲モ601形



▲モ601形



▲モ601形